

# 2024 年度八戸工業大学公開講座報告\*

社会連携・研究推進部

## Annual Report of Open College of Hachinohe Institute of Technology in FY2024

Office for Promotion of Academic Collaboration

### ABSTRACT

In 2024, following on from 2021, we held over 40 public lectures and hands-on courses. A particularly big difference from the past is the opening of Bancho Satellite Campus "Banlabo", which has made it easier than ever to hold public lectures in the city. It is thought that further improvements will be needed in the future, including the purpose of public lectures and the use of satellite campuses.

**Key Words:** open college, research introduction, university education, satellite campus

**キーワード:** 公開講座, 研究紹介, 大学教育, サテライトキャンパス

### 1. はじめに

2021 年度から社会連携学術推進室が運営担当した公開講座が 4 年目となった。また、2022 年 4 月から八戸市番町に番町サテライトキャンパス「ばんらぼ」(以下「ばんらぼ」)が開館し、公開講座や研究展示などの活動に利用することができるようになり、3 年目を迎えた。ばんらぼは、八戸市中心部での大学の活動拠点と共に市民との交流の場になっている。

本稿は、「ばんらぼ」を中心とした公開講座を含めた、2024 年の実施の状況について、記録をしたものである。

### 2. 公開講座の概要

2024 年度の公開講座は社会連携・研究推進部(大室康平, 黒滝泰世, 佐藤南: 以下, 本学所属の個人は、敬称・肩書を省略した)を事務局とし、2021 年度に実施した内容(社会連携学術推進室, 2021, 参考文献 1)を踏まえて、講演型公開講座、および各部局で実施する体験型公開講座として、年間 40 回以上の開催を計画した。2024 年度の講演型公開講座は、前年の方法を踏襲し各教員が 2 年に 1 回の担当を想定したため、前年度に担当をしていない教員を中心に担当者を割り当てた。また前年度好評であった講座は、担当教員に交渉し、二年連続の実施となった場合もあった。

---

\* 令和 7 年 1 月 31 日 受付

### 3. 公開講座の実施状況

#### 3.1 広報活動

広報活動は、ばんらぼでのポスターの掲示およびチラシの配布、大学ホームページでの公開講座ページ、SNS（八戸工業大学公開講座 X、およびばんらぼ X）等により行った。また広報はちのへのイベント欄への掲載（担当講師、テーマ、日時、場所の文字情報）も行った。

また今年度より、ばんらぼの館長に就任した関秀廣八戸工業大学名誉教授が、ばんらぼのモニターに公開講座の案内用スライドを作成し、来場者や通行者に広報を行った。

#### 3.2 実施した公開講座

表 1 に 2024 年度に実施した公開講座を示した。写真 1, 2 は公開講座の様子である。内訳は、講演型 37 回、体験型 10 回であった。受講者の延べ人数は、講演型 306 人、体験型 96 人であり、合計で 402 名であった。一回あたりの平均参加人数は、講演型 8.3 人、体験型 9.6 人であった。前年度と比較し、講演型公開講座の人数が増加した。これまでの傾向と同様に、講演型に比べて体験型の方が、受講者が多かった。また、ばんらぼを中心に開催されている講演型公開講座の 1 回あたりの平均受講者数は 2022 年度 6.1 人、2023 年度 5.4 人であり、2024 年度は 8.3 人と、ばんらぼ開館後、最多の人数を記録した。

表 1 2024 年度に実施した公開講座一覧

##### A. 講演型公開講座（全 37 回）

回	開催日	曜日	氏名	タイトル	受講者数
1	4 月 20 日	土	関 秀廣	光を楽しむ	3
2	5 月 11 日	土	嶋脇 秀隆	光はどこから？	6
3	5 月 16 日	木	川本 清	国際光デーに実験しながら見る光の科学の発展史	4
4	5 月 25 日	土	柴田 幸司	電波って危ないの？	10
5	6 月 1 日	土	星野 保	SDGs 活動で大学と企業・地域住民が共に作る日本酒	8
6	6 月 8 日	土	信山 克義	SDGs に貢献する！環境にやさしいバイオマスプラスチック	11
7	6 月 15 日	土	折田 久幸	南部地域のカーボンニュートラル	10
8	6 月 22 日	土	小玉 成人	ハンディ風速計で風をつかまえよう！～風力発電の仕組み～	10
9	6 月 29 日	土	田中 義幸	みんなで作る種差海岸花マップ！	11
10	7 月 13 日	土	大室 康平	スポーツが上手くなるために知っておきたいこと	9
11	7 月 20 日	土	桶本 まどか	持続可能な音楽文化にするためには？	3
12	7 月 27 日	土	佐々木 崇徳	八戸の祭と大澤多聞	8
13	7 月 28 日	日	皆川 俊平	祭の古今東西 伝統からフェスまで	6
14	8 月 7 日	水	大黒 正敏	機械の日記念：「機械」だけじゃない機械工学の世界	10
15	8 月 23 日	金	佐藤 学	機械工学とシャンパンの甘い関係	4
16	8 月 24 日	土	鈴木 寛	地球と宇宙を結ぶ軌道エレベータ	8
17	9 月 7 日	土	竹内 貴弘	頻発する自然災害 ○○年に 1 度の大雨・大雪とは？	10
18	9 月 14 日	土	外里 健太	近年の豪雨と斜面災害	8

19	9月21日	土	工藤 祐嗣	白銀大火から考える	8
20	9月29日	日	加藤 雅也	砂浜はどこへ?～海岸侵食の脅威～	8
21	10月19日	土	佐藤 手織	無意識と俳句	5
22	10月20日	日	高橋 史朗	トークデザイン	6
23	10月26日	土	高屋 喜久子	デザインの体感を楽しもう!	8
24	10月27日	日	鶴田 猛彦	お酒の秋 お酒を化学する!	7
25	11月2日	土	黒坂 貴裕	島守の葉たばこ栽培と建築	12
26	11月9日	土	阿波 稔	土木とは何だろうか?～形態デザインの視点から～	3
27	11月16日	土	福士 譲	建築デザインのススメ方	6
28	11月17日	日	安部 信行	建築空間をユニバーサルな視点で体感する!	9
29	11月18日	月	石山 武	「機能性材料としての半導体」	13
	11月18日	月	嶋脇 秀隆	「ミクロンサイズの小さな電子源とデバイス応用」	13
30	11月24日	日	本田 洋之	菌の棲家	7
31	12月7日	土	小久保 温	機械が語る, 機械が描く～生成 AI のヒミツ～	9
32	12月8日	日	清水 能理	サイバー攻撃と個人情報保護について	10
33	12月14日	土	宮腰 直幸	一眼カメラを始めてみよう ～一眼カメラの初めて講座～	5
34	12月14日	土	戸田山 みどり	クリスマス絵本の楽しみ～サンタの橇は空を飛ぶ～	7
35	12月15日	日	山口 広行	ものづくりの秘訣 ～ET ロボコン全国 V を目指して～	3
36	12月21日	土	竹浪 二三正	サイコロを使って確率を考えよう	8
37	12月22日	日	坂本 禎智	工学×アート×脳	20

B. 体験型公開講座 (全 10 回)

回	開催日	曜日	氏名	タイトル	受講者数
1	7月6日	土	宇野 あずさ 皆川 俊平 石毛 清八	アート・デザインが好きな高校生のためのデッサン体験会「1,2のデッサン」	3
2	7月21日	日	竹浪 二三正	統計学の話～共通テスト統計分野にチャレンジ～	2
3	7月28日	日	星野 保	北上山地粘菌探検隊 part 2	14
4	9月22日	日	宇野 あずさ 皆川 俊平 石毛 清八	アート・デザインが好きな高校生のためのデッサン体験会「1,2のデッサン」	15
5	10月12日	土	外里 健太	紙で丈夫な橋をつくってみよう	14
6	10月13日	日	花田 一磨	エディソン倶楽部公開講座「バーサライタの製作」	未集計
7	10月27日	日	塩入 彬允	生涯スポーツとしての卓球講座	11
8	11月3日	日	石山 俊彦	おもしろ電子工房 ステレオスピーカーを作ろう!	22
9	11月24日	日	本波 洋	I コース ジュニアプログラミング講座	8
10	11月24日	日	佐々木 崇徳	ゲームの日 工学とゲームの結びつきとは?	7
	2025年3月 23日予定	日	川本 清	ちょっと実験してみましよう!? 手軽で不思議な実験ワークショップ	



写真1 講演者：竹内貴弘教授（9月7日）



写真2 講演者：柴田幸司教授（5月25日）

### 3.3 受講者の構成と評価（参加者のアンケートより）

講演型公開講座の受講者には、アンケートを実施した。アンケートの項目は、性別、年代（10代から80代まで十歳ごとに区分）、公開講座を知ったきっかけ、理解度、今後の公開講座への参加などで任意回答として求めた。

講演型公開講座のアンケート回答数は、233名であった。受講者の性別は、男性164名、女性68名、未回答1名、男性が7割を占めた。年代別の割合は、60代が最も多く29.0%、次いで70代が24.2%、50代が20.8%で上位であった。

公開講座を知ったきっかけとなった情報源（表2）の上位は、「ばんらぼ」、「大学ホームページ」、「新聞」であった。先にも述べたように、「ばんらぼ」にはポスターの掲示とチラシの配布、また大学ホームページには、公開講座の予定を随時更新し、掲載している。「新聞」は、新聞社に広告を掲載しているわけではなく、デリー東北新聞が記者クラブへの事前の投げ込みを元に、「ひろば・番組」面の「きょうのメモ」欄で当日のイベント情報を掲載しており、その情報を見ての受講ということである。またアンケートは毎回実施しているため、受講して、さらに次回の講座の情報を得るリピーターの方もいると思われる。

またSNSは、4.7%で割合は高くないが、ホームページと合わせると30%を超えるため、Webを活用した情報発信は不可欠であると考えられる。

講義の理解度は、「理解できた」が45.9%、「おおむね理解できた」が42.1%と合わせて90%弱の受講生が「おおむね理解ができた」と考えられる。各教員の内容が一般市民にも理解がしやすい内容、また伝え方も理解がしやすいようになっていたと思われる。

今後の受講希望については、「数多くの受講をしてみたい」が38.2%、「内容によっては受講してみたい」が34.8%、と受講に好意的で積極的な回答が多かった。「内容によっては」という言葉から考えると、やはり興味のあるテーマを大学側が的確に把握することが必要であるだろう。理解度の結果と合わせると、受講者の概ねが満足していると考えられる。

表2 公開講座の開催を知った情報源（回答数 233）

順	情報源	回答数	割合
1	ばんらぼ	87	37.3%
2	本学 HP	62	26.6%
3	新聞	40	17.2%
4	SNS	11	4.7%
5	広報はちのへ	7	3.0%
6	八戸市役所	7	3.0%
7	はっち	5	2.1%
8	ブックセンター	3	1.3%
9	ラピア	1	0.4%
10	無回答	10	4.3%

#### 4. 公開講座を実施しての所感と今後の課題

ここまで 2024 年度の公開講座の実施概要について述べた。本章では、公開講座を実施した所感と今後の課題について述べる。

##### 4.1 受講者の獲得

公開講座の主旨は、「一般市民に大学の教育研究活動を広く公開する」ことである。ここ 3 年のなかで、講演型公開講座の来場者が最も多かったことを考えると、主旨に合った活動となっていると言える。大学を地域に知ってもらうことも含めて、公開講座は有意義な活動であると考えられる。公開講座に参加された方はリピーターの方もおられ、雰囲気を楽しまれているものと思われる。今後の充実を図るには、より多くの市民に参加してもらう契機作りが要と思われる。専門性を追求しなければならない大学は、市民にとっては近づき難く、高い敷居を感じてしまいがちである。その点を解消すべく、大学・教員側が機会あるごとに導入部分を丁寧にわかりやすく解いていく姿勢が肝要であろう。

一方で、大学への進学を考えると、より多く来場して欲しい層は高校生以下の 10 代の年代となる。しかし今年度も 10 代以下の受講は 5.6%と、昨年、一昨年と同様に 10%以下であった。講演型公開講座に、高校生以下の年代が来場してもらうことは、今後の目標の一つであると考えられる。

一方で体験型の公開講座では、高校生以下の年代を対象としたものもあり、年代の調査まではできていないが、内容や時期、広報の方法によっては高校生以下の年代に受講してもらえると考えられる。前年度の社会連携学術推進室（2023）の報告<sup>2)</sup>で、金子賢治社会連携学術推進室長から「講義の内容が伝わるようにテーマを工夫すること」と述べられており、テーマの重要性についての事例が紹介されている。

2024年度は、講演型公開講座で各月ごとに月間のテーマを設定し、月ごとに関連する内容をまとめる形で実施をした（表3）。今年度の講演型公開講座において、高校生の受講生が多かったテーマは、9月7日の竹内貴弘教授の「頻発する自然災害 ○○年に1度の大雨・大雪とは？」（高校生5名）と、11月17日の安部信行准教授の「建築空間をユニバーサルな視点で体感する！」（高校生4名）であった。受講者が多かった理由の詳細はわからないが、9月7日の受講生の1名は「自然災害に興味があったこと」と「学校の先生から開催を教えてもらったこと」という理由で受講したと話していた。広報活動の強化はもちろん重要ではあるが、高校生にとって関心のあるテーマをこちらが把握しておくことで、高校生の来場者を増やす可能性も考えられる。特に課題研究などについて関連したものであれば、より関心が高まるのではと予想される。高校の行事予定を見ると中間考査、期末考査、模試、講習、各種テスト、実力テスト、到達度試験などの多くのイベントが盛り込まれている。これらの時期に多くの高校生が「ばんらぼ」に来館し、自学自習している姿が見られることから「ばんらぼ」への入館にバリアを持っているとは考えにくい。高大連携のもと、生徒の日程を考慮した設定も一助となる余地があるものと思われる。

表3 講演型公開講座の月間テーマ

月	月間テーマ
4月	ばんらぼ事始め
5月	光月間 5月16日「光の国際デー」
6月	SDGs月間
7月	お祭り 三社大祭・夏季オリンピックなど
8月	機械月間 8月7日「機械の日」
9月	防災月間 9月1日「防災の日」
10月	○○の秋 食欲・芸術・読書などなんでも
11月	建築月間 11月11日「公共建築の日」
12月	データサイエンス・情報月間

## 4.2 開催場所

2022年に開館したばんらぼは中心街に位置することもあり、この3年で公開講座の拠点となっている。八戸市美術館側のショーウィンドウ・モニターに公開講座を案内するスライドの放映（写真3）や、窓際の棚に教員のテーマに関連した展示物を歩行者からも見えるようにした（写真4,5）。また公開講座の開催日にも、立て看板で案内を出す（写真6）など、新たな広報活動を行うことで認知度も高まり、受講生の増加につながった部分はあると考えられる。場所の良さを生かしながら、今後の公開講座の受講生の増加につなげていくことが、本学の認知度を上げるためにも重要となるだろう。





写真3 ショーウィンドウでの公開講座予告



写真4 公開講座と関連デモの展示

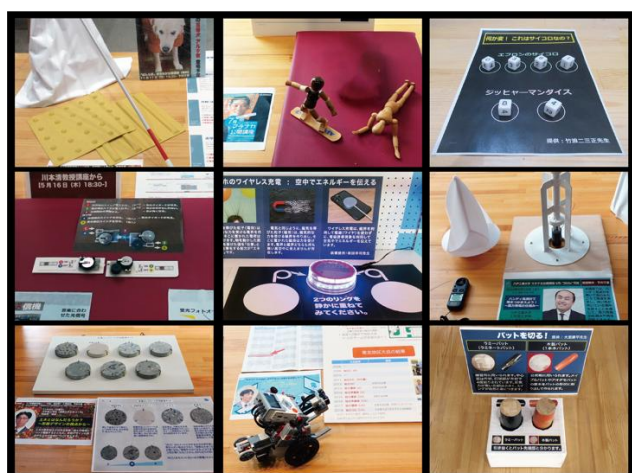


写真5 公開講座に関連した多種多様なデモ



写真6 公開講座を告げる私有地エリアの立看板

## 5. おわりに

2024年度は、2021年度から継続し講演型、体験型を合わせて、40回以上の公開講座を実施した。2022年に番町サテライトキャンパス「ばんらぼ」がオープンしたことで、街中での公開講座の実施がこれまでより容易になったことに加え、認知度やばんらぼ内の展示の工夫などにより、講演型公開講座の来場者は、ばんらぼ開場後最多となった。今後も地域貢献につなげながら、本学を知ってもらう活動として、改善を図りながら実施していきたい。

## 参考文献

- 1) 社会連携学術推進室：「2021年度 八戸工業大学公開講座報告」、八戸工業大学地域産業総合研究所紀要、第20巻、pp 8-17、2021。

- 2) 社会連携学術推進室：「2022-23 年度 八戸工業大学公開講座報告」，八戸工業大学紀要，第 43 巻，pp 85-91, 2023.

## 要 旨

2024 年度は，2021 年度から継続し講演型，体験型を合わせて，40 回以上の公開講座を実施した．2022 年に番町サテライトキャンパス「ばんらぼ」がオープンしたことで，街中での公開講座の実施がこれまでより容易になったことに加え，認知度やばんらぼ内の展示の工夫などにより，講演型公開講座の来場者は，ばんらぼ開館後，最多となった．今後も年間を通じての開催，また広報による幅広い年代の募集と次年度以降も改善を図りながら実施していく必要があると考えられる．

## 付 記

従前の社会連携学術推進室は，法人大学組織の改変を経て 2024 年度からは社会連携・研究推進部へと名称変更が行われた．本報告は，社会連携・研究推進部の大室康平，ばんらぼ館長の関秀廣を中心に書かれたものである．

**キーワード**：公開講座，研究紹介，大学教育，サテライトキャンパス